

長〜い夏休みが終わり、2学期が始まりました。休みモードから通常学校モードに変わりましたので、体がまだ慣れていない、という人もいでしょう。少しずつ、心と体のエンジンを回していきましょう。

【8/26(火) 始業式 校長講話】

嫌なことは考え方しだいでいいこともある。苦手の人や悩み事に人生を支配されないこと。嫌なこと、悩み事があっても楽しいこともあるはずだ。2学期は大きな学校行事がある。周りの生徒のキャラを決めつけないで欲しい。決め



つけると、相手はたいへんきつい。泣いている人を慰めている人は、泣きたいこともある。

皆から好かれる人はいない。自分を責めすぎない、嫌な人とは適切な距離を取って過ごすことが大切。自分が好きな人でも相手がそう思わない場合はむりやり追いかけない。きっと、誰か君を好きに思う人が現れる。相手が傷つくことを狙って、その言葉を発してはいけない。嬉しいと思ってもらえる言葉をかけてほしい。人生を変えるにはきっかけが必要。たとえば、遅刻している人は遅刻しないと心に決める。アルバイト無断欠勤した人は、無断欠勤しないと決める。あいさつをしていない人は、習慣になるまであいさつを続ける。アルバイト代は少しずつでよいから貯める。テスト前にしっかり勉強する。周りが評価する。それが自信へとつながる。日常を変えることが人生を変えるきっかけになる。



【NHK番組「仕事の流儀」から】

先日、NHKの「仕事の流儀」という番組を観ていたら、清掃の仕事に従事するプロの話があった。その方は、新津春子さん(49才)。父親は中国生まれの残留日本人孤児である。17才で来日し、高校へ通いながら家計を助けるために選んだ仕事が「清掃」。日本語がほとんど話せなくてもできるから、というのが選んだ理由。日本空港テクノ株式会社へ入社。10年目にし、全国ビルクリーニング技能競技会で最年少優勝に輝いた。年間8000万人を超える人々が利用する東京羽田空港が現在の働き場所である。フロア、ソファ、イス、トイレなどを総勢700人もの清掃員できれいにする。新津さんはそれを束ねるチーフとして活躍している。各清掃員への技術指導はもちろんであるが、SOSに対しても完璧な清掃の腕を振るって範を示す。「空港を訪れる人が『きれい』と思ってもらうことが嬉しい。誰がきれいにしたかなんて、どうでもいいこと。『きれい』であれば、ゴミも捨てようとしなないし、心が『きれい』になる。」羽田空港は、海外リサーチ会社から2013年、2014年、2016年、2017年に「世界一清潔な空港」に選出された。日々陰となり、清掃一筋の新津さんらの取り組みが評価された。

私は、この番組を観て思ったことがあります。とにかく人は自分を他人の境遇と比較し、うらやみ、ねたみ、劣等感に浸りがちです。「置かれた場所で咲きなさい」という有名な言葉があります。今の自分の環境に存在することに感謝し、他者との関わりを大切にして、将来の方向を決めて、一心不乱に努力することが大切です。番組の後、新津さんのひたむきな仕事の流儀に感動し、私自身、恥ずかしく思いました。